

平成 26 年度地域懇談会（中地域）

平成 27 年 2 月 21 日（土）
午前 10 時～午前 11 時 45 分
健康文化センター 多目的室

1 課題

大口町の健康づくりと介護予防

～「健康寿命の延伸」と「元気を支えるまちづくり」～

2 対象地域

中地域（余野、垣田、さつきヶ丘）

3 参加者

地域（46名）

大口町

鈴木町長、大森副町長、天野健康生きがい課長、掛布課長補佐、松井課長補佐、（課題説明者：春日井保健師、松永主事補）

4 懇談会進行

鶉飼地域協働部長

5 司会進行

佐藤地域振興課長

6 状況

健康生きがい課によりテーマについて説明を行い、その後懇談会を実施しました。状況は以下のとおりです。

座長・地域協働部長（鶉飼嗣孝）

地域懇談会は、意見交換の場で、要望を出す場ではないことと、誹謗中傷にならないようお願いします。また今担当が説明しましたことでわからないこと等質問していただきますようお願いいたします。

参加者 A

4点ほどお願いします。1つは、せっかくプロジェクターで説明していただいたが、資料がないので次回から資料を配ってくれるとありがたいです。次に、受診率が出てきましたが、その中に高齢者の要介護者が含まれていますか。生活習慣病が50%、この中で、ガンも生活習慣病になるのですか。介護にかかる費用が8億円、実際町が支出しているのはいくらですか。12.5%でいいのでしょうか。

健康生きがい課長（天野浩）

まず、資料の件ですが、みなさん興味を持っていただいているようで、後手になってしまいましたが、今日はお持ち帰りいただけるよう用意しましたのでよろしくお願いいたします。それから受診率の話ですが、全ての方が対象ですので要介護者の方も入っています。

参加者 A

要介護者の場合、介護の認定が重度の場合、付き添いが必要ですが、要介護100%というか、要介護者の方はある程度分かっているから、そう気にしないというか、その辺のことを知りたいです。要介護者の中で平均値以上受診している、とかいう分析をしていますか。

健康生きがい課長（天野浩）

現在はそういう視点で分析はしていません。今日のご意見をいただきましたので、そういった視点での分析も検討してみたいと思います。

保健師（春日井保健師）

ガンが生活習慣病かということですが、ガンも生活習慣病になります。たばこが肺がんや喉頭がんに関係しています。飲酒、アルコールも飲みすぎると肝臓ガンになりやすいです。また、塩分も取りすぎると胃ガンとの関係があるといわれています。

健康生きがい課長（天野浩）

介護費用についてですが、先ほどのプロジェクターですが、約8億3千万円と紹介しました。円グラフのとおり、半分は保険料、残りの半分を国が25%、町と県が12.5%ずつとなっています。保険料はみなさんからいただいています、国、県そして町のお金も全て、間接的にはみなさんからいただいているものです。町の負担がどれだけかということになれば12.5%ということになります。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

他によろしいでしょうか。

参加者 B

一つよろしいでしょうか。今の説明の関連事項ですが、自然災害や緊急時の要援護者に対する、現在の町のサポート状況はいかがですか。今後どのようにしていくか、という構想があれば教えてください。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

今日のテーマは健康づくりと介護予防ですが、特別にお答えさせていただきます。

健康生きがい課長（天野浩）

前までは災害時要援護者、現在は災害要支援者といいますが、一般には高齢者、障がい者、妊婦など、災害時に自分で非難が困難な方についての、町の取り組みへのお尋ねですね。従来は手上げ方式でした。手上げ方式で町に登録して、行政区、警察、消防と情報共有しながら、災害が起きたときに対応できるよう考えてきました。しかし、東日本大震災で、災害時要援護者の方への対応が非常に遅れたため、数年前に災害対策基本法という法律が一部改正され、災害時は町が持っている名簿等個人情報を利用して、すぐに支援に行くことができるようになりました。また、災害が起きた時に、自分は支援が必要だ、という人は、手上げ方式で登録し、災害時にはその情報を消防、警察、行政区、民生委員さんと共有し、支援に行けるような仕組み作りが、現在マニュアルとしてできつつあります。健康生きがい課、福祉こども課、町民安全課でこれを実行する検討をしています。決定ではありませんが、こういったことのモデル地区を行政区、自治組織単位で対応ができる、ということであればお話しさせていただき、できるところからお願いに行きたい、と考えていますのでよろしくお願いします。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

その他にございますでしょうか。

参加者 C

介護保険については、町を代表する数字になっていると思いますが、若い世代を説明する時に国保のデータを利用していますが、大口町の場合企業の健康保険の加入者が多いと思います。そこのデータの相関性は大丈夫ですか。企業のすべてのデータを使うのは、難しいと思いますがどうでしょうか。

健康生きがい課（松井課長補佐）

町が掌握している医療費は、国民健康保険の部分しかありません。企業も健康組合の中で、従業員の健康管理でやっているところですが、県全体で地域、職域連携という中で企業の情報で、企業が持っているものを地域にどうやって還元するか、というところで、国全体で同じ仕組み、共通の認識の中で、情報共有していくようやり取りしています。県から集約したデータが習得できている部分は少し手元にありますが、まだそれを相対的に見てどうか、というところまではできていません。特定健診についても、健康増進法ができて全国一律で健診して、なおかつ健康指導まで受けるところまでを医療保険者が責任をもってやる、という仕組みになりました。そういったデータもそれぞれの医療保険者が、大口町の場合は大口町が、国民健康保険の保険者として、企業は企業で、同じように、同じ検診項目

で一律に集計したものを国が集めてこういう状況です、というのを流していますので、少しタイムラグが出たりして、大きな数になるのでうまく情報をもらいながら若い世代のみなさんに、ということであれば、積極的にそのあたりのデータをとって、みなさんにお伝えしていきたいと考えています。ご指摘ありがとうございます。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

よろしかったでしょうか。

参加者 C

はい。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

その他にございますでしょうか。

参加者 D

先ほどの説明の中で、高齢化率が高いが介護認定率が低いところがあったが、何かデータとして分析などしていますか。

健康生きがい課（春日井保健師）

外坪とさつきヶ丘だったと思いますが、他の地域と比べて外坪とさつきヶ丘は、地域のつながりが強いのではないかと思います。今言われているのは、地域のつながりが強いほど、健康意識が高く健康な人が多いといわれています。さつきヶ丘の方に聞いていただくといいのですが、防災センターを拠点として、たくさんの方が集まれる会を設けていたり、顔の見える関係ができているところがいいのではないかと思います。

健康生きがい課長（天野浩）

前回北地域で懇談会を行いましたときに、外坪の方にきいたところ、田んぼや畑など農作業を一生懸命やっていることが、そういったことにつながっているのかもしれない、と見えました。専門的な分析ではありませんが、そのようなことではないかと思います。

参加者 D

もう一点ですが、ガン検診で、大腸や乳ガンは補助されていますが、人間ドックや脳ドックの補助はありますか。

健康生きがい課長（天野浩）

国民健康保険加入者の方については、人間ドック費用の3割程度を助成しています。

参加者 D

ほとんどの人は厚生年金だと思いますが、そちらの方はまだ検討されないのでしょうか。

健康生きがい課長（天野浩）

それぞれの加入している保険の方で何らかの費用助成があると思いますが、具体的な内容までは町で把握はできていません。国民健康保険に加入されていない方の人間ドック、脳ドックの助成は考えていませんのでご理解ください。

参加者 D

先ほどのデータでも死亡原因の一つに脳卒中がありました。また、まちによっては助成しているのでできるといいと思います。

健康生きがい課長（天野浩）

まずは近隣の状況を調べてみたいと思いますが、そういったものは予防に重点を置いて進めていきたいと考えています。

副町長（大森滋）

ただいまのご質問についてですが、65歳から74歳までは、前期高齢者ということになり、国民健康保険に入ることになります。65歳から74歳までの男性については、国民健康保険での助成の対象になっています。ほかの世代については、それぞれの健康保険組合の助成があると聞いていますので、そういったものを利用してください。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

最初に聞いていただいたさつきヶ丘のことについて、今日はさつきヶ丘の方が見えるので、どなたか教えていただけないでしょうか。

参加者 E

私たちは、毎週水曜日にふれあい事業の一環としてふれあいサロンを朝10時から夕方4時ごろまでやっています。集まるのは高齢者の方がほとんどです。さつきヶ丘は高齢化率38.3%で、大口町で一番高いです。最近若い乳児のお母さんが参加されています。昔の井戸端会議のような感じで、高齢者の方はそれぞれテーブルについて、最近ですと、80代の方が先生になって、折り紙でお雛様をつくる教室をしてもらいました。歩いてそこまで来てもらわないといけないので、高齢者の方も、そこまで歩いていくという強い気持ちを持っていると思います。先日も健康推進委員が料理教室を行いました。簡単にお好み焼きを、それぞれの家のやり方を紹介合うというものでした。大変楽しく開催されました。できたものはサロンに来ている人にも、少しの料金をもらって食べていただきました。ふれあいはサロンだけでなく、子ども会の行事もふれあいの運営委員で共催して、大きなものでは納涼祭を、民生委員や更生保護の会、あんしん安全隊も出てもらい、横のつながりもできていると思います。今後は高齢者見

守りの方にもぜひ来ていただきたいと声かけをしています。現実的には少数の方しか来られないですが、近い将来そういう方がいつでも来られるようにしたいです。困っていることなど相談できるようにしたいと思っています。特定健診の受診率が高いという数字が出ていましたが、去年からゴミの日の朝に、受診票を声を掛けながら100部ほど渡しました。そういう取り組みで受診してもらおうと思いました。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

今の話のように、人が集まる交わりの中や、外坪のように農業が知らないうちにスポーツのようになっていくようです。あと大屋敷のことを担当に聞いてみましょう。

健康生きがい課（掛布課長補佐）

健康生きがい課では、南小学校区域で一番高齢化率が高い大屋敷地区で、高齢者の見守り支え合いを考える会、というものを行いました。大屋敷内には5つの地区がありますが、その中の一つの新田地区があり、そこには一期一会荘という老人ホームがあります。その入所者が年を取ってきて、半数くらいの方が支援の必要な状態になっています。もしもの時には、地域の協力が必要と考え、荘長が新田の見守りの一員となりました。見守りの推進委員のメンバーが月に1回集まり、高齢者の居場所作り、そこへ来てもらうと見守りにつながるようなことで、サロン活動を開始しました。第1土曜日が開催日になっています。9時から10時半くらいまでで、10時半から30分ほどは、一期一会荘のスタッフが介護予防に棒体操、お手玉、脳トレ等を行い、毎回楽しく実施しています。新田の高齢者の見守りの推進委員は、当時考える会に参加してもらった方で民生委員、高齢者の福祉協力員、子ども会のメンバーになっています。子ども会で来た方も、子供が卒業した後引き続きやりたい、また新たに子ども会の役員になった方も加わって、若いスタッフも参加しており、地域のつながりができ楽しくやっています。足が悪くて新田の集会所に来られないお年寄りに対しては、スタッフが車で送迎しています。月に1回集まった時には、「どこどこのだれだれさん元気だったよ」といったような会話をしながらサロンを開催しています。このような状況です。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

このように町内で行っているものもあります。他にご質問はないでしょうか。

参加者 F

私たちは、病気になると町医者にかかりますが、町として町医者と共同し

で行っていることはありますか。もう一点、町医者によっては健康診断を積極的に進めている所もあるかもしれませんが、個人情報にかかわることで調べられるかわかりませんが、そういう町医者の近くに住んでいる人は健康診断をよく受けている、というようなことはないでしょうか。

健康生きがい課長（天野浩）

健康生きがい課では、町民の方が各種予防接種、ガン検診、特定健診などを町内医療機関で受けられるよう、事業を行うとき依頼しています。また予防接種、乳幼児検診などは町の保健師も一緒に行いますので、そういったところで情報共有しています。今後につきましては、今日の資料の「地域包括ケアシステム」をご覧ください。平成25年度に団塊の世代の方が後期高齢者に入ってきます。地域包括ケアシステムの構築ということが地域に求められています。地域包括ケアシステムというのは、要介護状態になってもできる限り地域で生活ができるよう、制度を構築するという事です。医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを地域の中で連携していく、ということです。こういったことで、今まで以上に地域のお医者さん、ケアマネジャーといった方と、情報の共有をしていくことが必要と考えています。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

本日のテーマであります、健康づくりに取り組みやすい環境づくりと介護の予防のために、みなさん良い方法などはないでしょうか、また高齢者の方が活躍できる場を、どうしたら作れるでしょうか、というようなことを伺いたいのですが、ご提案などないでしょうか。

ないようなので、前の資料をご覧ください。余野は大口町の中では若い地区であるイメージがあります。余野の人口の10年前との対比をグラフにしました。人口が増えています、65歳以上も増えています。10年前は12.1%でしたが今は18%です。町内の人口が増えていない地区でも、高齢者の割合が増えています。若い人が減っている。または人口が同じでも高齢者の比率が増えている。大口町はまだ人口が増えています、近隣の江南市や犬山市では減ってきています。減ってきている中での高齢化です。大口町ももうすぐに同じような状況になる中で、今後医療費がたかさんかかるがどうしていくといいか、ということで、役場の職員だけじゃなかなか考えきれないような、いい考えがあればお聞きできるチャンスになれば、ということでこういった場をいただいています。つぎに予算ですが、予算も10年前と比較したものです。予算も10年前と比べると増えています。しかし増えた部分はほとんど医療、保育など民生費に使われて

おり、今後も増えていくと考えられます。24.76%であったものが31.09%に増えています。今までより早いペースで高齢化が進む中今後10年でこれがどうなっていくか、という心配があります。

では、大口町はお金があるといわれますが、ここで町長に話を聞きたいと思います。

大口町長（鈴木雅博）

民間にいたころに、大口町はお金があるのにどうして舗装などを直さないのだろうと思いました。町長になり予算編成の中で思ったことは、土木費が13%ほどありますが、50年ほど前に圃場整備で作った側溝などの施設が老朽化しているが、土木費が減ってきてこれを直すお金がない。福祉、教育という根底になる部分に予算が必要になってきています。今日はみなさんにお集まりいただき、どうしたらよいかということと一緒に考えていきたいと思います。まず病院にかかる前に、みなさんが健康になっていただくことと思います。国民健康保険では一人24、5万円かかります。大口町はお金があるといわれますが、各課から出てくる予算要求を見ると不足しています。今一番増えている福祉にかかる部分を、みなさんにサービスをしながら抑えるか、ということも大切です。大口町は多くの企業があるおかげでお金があるようにいわれますが、様々な要因があり、今景気がいいから税金が入ってくる、というわけではありません。私たちはここで生きているわけですが、生きるということが一番必要なのは、前向きに進むこと、前向きに自分で努力することではないでしょうか。それを一人一人がそうやって行けば、保険や介護に関する予算が減ってくるのではないかと思います。

国民健康保険の話も出てますが、去年と今年で2億円ほど増えるようです。高度医療ですと2、30人の方だけで1億円かかっているのも事実です。そうならないように、みなさん一緒に生活習慣病にならないようにし、元気にこの町で暮らせるようなまちづくりをしていきたいと思います。

今日お見えのみなさんは、健康に自覚を持って見えると思いますが、地域の中でそういう意識のない方もたくさん見えると思います。今日のこと、みなさんが健康でやっていくことが町の発展にもなることなどを、ぜひ地域で話題にさせていただきたいと思います。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

担当が今後地域に何うことになると思いますが、その際にはよろしく願います。本日はありがとうございました。